



一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校

# 今成小だより



令和6年2月1日発行

## 「ふるさと学習」推進中

ふるさとの山に向ひて

言ふことなし

ふるさとの山はありがたきかな

こちらは明治の歌人、石川啄木が詠んだ歌です。ふるさとの山というの「岩手山」とも、ふるさとの象徴を「山」としたとも言われています。いずれにしても、望郷の思いやふるさとを慕う気持ちがしみじみと表現されていると感じます。

人間形成の基礎となるのが子ども時代。その時期を過ごした場所への思いは、誰にとっても格別なものがあるのではないのでしょうか。

さて、以前にお伝えしましたように、今年度、本校では「ふるさと学習」に力を注いでいます。年間指導計画を見直し、ストーリー性のあるふるさと学習となるよう工夫・改善を重ねているところです。全校で取り組むことで、「ふるさと」というものをより身近に感じるきっかけになればと考えています。

今年度進めている主な取組は以下の通りです。

- 1年生 はじめての今成小学校 学校探検 いまなりん&むっちゃん
- 2年生 学校から出発 ときどきわくわく町たんけん // part2
- 3年生 身近な地域の自然環境 今成小学校とわたしたちの川越市
- 4年生 体験-感動-無形文化遺産 川越まつり(お囃子)→埼玉(和紙)
- 5年生 みんなにやさしい町の一人に 自分が将来貢献できること…
- 6年生 川越と日光の歴史的なつながり 自分たちの町(川越)の幸福論

子どもたちは、学校に親しみを感じるという所からスタートし、学年に応じて徐々に活動の範囲を広げます。また、「知ること」から「自ら探究」へと徐々に学習を深めていきます。さらに高学年になると、福祉やキャリア教育、中学校との接続を踏まえ、将来的な貢献など少し先に思いを馳せるようなことにも取り組みます。

自分を形作るうえで、「ふるさと」の存在意義は大きいのではないのでしょうか。今後も、保護者や地域の皆様のご協力をいただきながら、ふるさと学習の充実を図ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



1年生、いまなりん&むっちゃんとの出会い。



3年生は学校のそばの用水路に出かけ、すぐ近くにある自然を体感しました。



4年生は囃子連の皆さんから地域に伝わる伝統芸能を学び、体験しました。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす